

令和3年3月18日開催

本会議は、テレビ会議システムにより開催した。

<発言者>

<項目・内容>

委員長

1 公安委員長挨拶

「新聞で、小中高生の自死者数の増加が報じられた。教職の経験から、今後の社会を担う子供たちの自死は大きな問題だと思っている。記事では、2020年は499人が自死し、前年に比べ100人増加、特に中高生が多く、高校生が339人を占めていること、さらに女子高校生の大幅増加が報じられた。その原因として、コロナ禍にあって学校の長期休校による家庭内の生活の様子の変化、両親の在宅増加、家庭の不和、そのほか学業や進路への不安等が挙げられている。

35年前、女性アイドル歌手がビルから飛び降り、自死した。その後、同様に死の選択をする若者が増え、『群発自殺』という言葉を知った。当時、年間3万人で推移していた全国の自死者数は平成24年以降2万人台と減少しているものの、若者の自死は見過ごせない。このデータに関しては、警察庁においても重要な問題と捉えていることと思う。

自死に関わる問題への対応は警察だけでできるのか。これは大きな問題だと思う。

経済的問題を抱えた家庭には民生児童委員や保育士が入っていく。私は、自死の問題に対しては、警察が主体となり関係機関が『連携』するのではなく、関係機関が『協働』して取り組むべきものと思っている。

この報道に接し、以前、警察署協議会委員が私に『委員を経験して、安全安心は警察だけで作るものではないと初めて分かった。県民・市民が一緒になって作らなければならないと教えられた。』と話してくださったことが結びついた。

警察では様々な工夫をして創造的に施策を作りだしてもらっているが、これからの社会は、警察がリーダーシップをとりながらも、皆が協働して安全安心を作っていかなければならないと思う。今後の取組の参考としてほしい。」旨の発言があった。

2 議題

公安委員会宛て苦情の申出

警察本部

公安委員会宛て苦情の申出について説明があり、原案のとおり決定した。

3 報告

(1) 苦情の取扱状況（2月）

警察本部

苦情の取扱状況（2月）について報告があった。

(2) 監察実施結果

警察本部

監察実施結果について報告があった。

(3) 大麻取締法違反事件の検挙

警察本部

「中国四国厚生局麻薬取締部との合同捜査により、被疑者2人が自宅において大麻草を栽培していたことから、1月28日、大麻取締法違反（大麻共同栽培）の罪で現行犯逮捕した。また、被疑者2人が自宅において乾燥大麻約8.647グラムを所持していたことから、2月17日、大麻取締法違反（共同所持）の罪で通常逮捕した。押収物は大麻草40株、乾燥大麻339.91グラムなどであり、昨年1年間の押収量に匹敵し、一度に押収した量としては過去5年間で最多、末端価格は200万円以上である。」旨の報告があった。

委員

〔意見〕「各機関とのネットワークを活用するなどして、これからも未然に犯罪を防止してほしい。」

委員

〔意見〕「このような事件に対しては、更に取り締まりを強化していただきたい。」

委員

〔意見〕「このような案件で麻薬取締部との合同捜査は非常に有効だと思う。これからも関係部署と連携して、このような犯罪を未然に防ぐように願います。」

(4) しまね安全ドライブ・コンテスト2020実施結果

警察本部

「地域・職場・家庭ぐるみで174日間の無事故・無違反に挑戦する、しまね安全ドライブ・コンテスト2020を実施した。参加状況は7,815チーム、県内免許人口の5.2パーセントに当たる23,445人であり、過去最多の参加人数であった。実施結果は7,115チームが無事故無違反を達成、達成率は91パーセントであった。参加者と非参加者を比較すると、人身事故件数及び交通違反件数はいずれも参加者の方が少なく、また、減少傾向にある各件数の減少率もいずれも参加者の方が大きく、効果のあるコンテストとなっている。」旨の報告があった。

委員

〔意見〕「チームで参加することによって、お互いに意識して高い効果を生んでいる。全国でも先駆け的な取組を進めてほしい。」

委員

〔意見〕「自分も自治会のチームで参加したが、参加すれば、気をつけなければならないという自覚をもって運転する。良い取組だと思う。」

委員

〔意見〕「10年ほど前から、社員が参加している。社員の統計を周知

した結果、大きな事故もなくなっており、効果のある取組だと思ふ。是非続けてほしい。」

5 総括

本 部 長

「交通部から、しまね安全ドライブ・コンテスト2020の実施結果について報告した。令和2年は初めて免許保有者の5%を超える多くの方に参加していただいたが、まだ伸びしろは大きい。免許保有者のうち多く見積もって40%の方が日頃車に乗られないとしても、車を利用しておられる残り60%の方に広く参加していただくことで、事故等の減少につなげていきたい。

安全に向けた取組は民間の方々のご協力も得ながら様々に進めているが、ドライブコンテストは、数ある取組の中でも一生懸命やればやるほど効果を上げることができる有効なものである。これまで振込用紙によってのみ参加を受け付けていた募集方法を含め、令和3年は改善策を検討し、参加者の拡大に取り組んでまいりたい。」旨の発言があった。